



SOMPOアセットマネジメント

A Theme Park for Security, Health & Wellbeing

# 経済・金融市場見通し

2023年9月



2023年9月19日発行

SOMPOアセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者関東財務局長（金商）第351号  
加入協会／一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会

# 経済・金融市場見通し： 国内

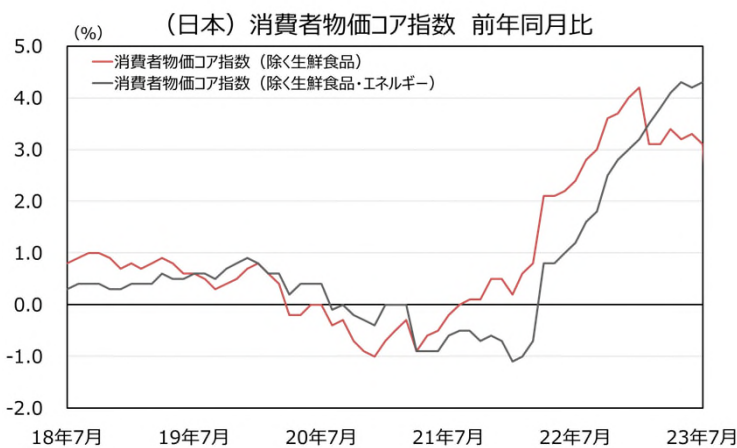
## 経済環境

### ：景気回復は緩やかなものになる

日本経済については、金融緩和の継続、インバウンド需要の回復などが景気を下支えし、緩やかながらも景気回復が継続すると考えます。ただし、人手不足による供給制約や人件費増大による企業収益の悪化、海外景気の減速などにより、景気回復は緩やかなものになると予想します。

物価については、7月の消費者物価指数（除く生鮮食品）は前年比3.1%（6月3.3%）となりました。今後は、前年対比で食料品価格等が下落に転じることから、年後半にかけて2%台の伸び率に鈍化すると予想します。

日銀は7月の決定会合でイールドカーブ・コントロール政策運営の柔軟化を決定し、次は政策金利の変更が注目されます。日銀は物価と賃金の好循環を見極める姿勢を強調しているため、当面は現在の緩和政策を継続する可能性が高いと予想します。ただし、足もとで円安が進行しており日本の物価に与える影響が大きいいため、その進展によっては政策変更への影響も想定されます。



## 債券市場

### ：金利は上昇基調ながら、上昇幅は限定的と予想

#### ◆ 前月の振返り

8月の10年国債利回りは上昇（価格は下落）しました。

7月末の政策決定会合において日銀が10年国債利回りの許容上限を実質的に引き上げたことを受けて、8月は国債利回りの上昇余地を探る展開となりました。投資家が国債購入を手控えるなか、利回りは上昇傾向で推移しました。

#### ◆ 見通し

今後については、金利は上昇基調ながらも上昇幅は限られてくると予想します。

日銀が許容する金利上限が上方修正された環境下、物価が依然として高水準にあることから今後も金利は上昇しやすいと考えます。ただし、現在の日銀の姿勢を勘案すると政策金利自体の変更は当面見込み難く、大幅な円安が進行しない限り金利の上昇幅は限られると予想します。



	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
国内債券 10年国債利回り	0.32%	0.64%	0.75%	0.85%	0.85%	0.85%

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でS O M P Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、S O M P Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 国内

## 株式市場

### ： 上値が重くなると予想

#### ◆ 前月の振返り

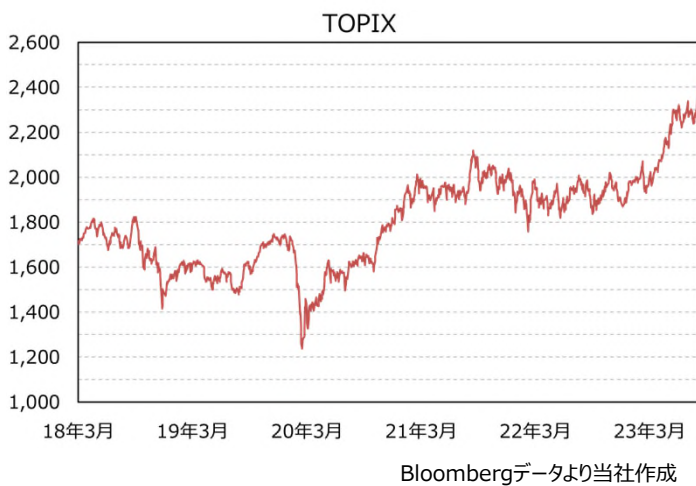
8月の国内株式市場は、上昇しました。

米国債格下げや中国経済の先行き懸念が高まったものの、日本企業の堅調な決算発表や米国において更なる金融引き締めに対する懸念が後退したことで、国内株式市場は8か月連続の上昇となりました。

#### ◆ 見通し

今後については、上値が重くなると予想します。

企業業績は、堅調な米経済や国内の経済活動正常化の進展、円安効果などがプラスに寄与することで今年度も増収増益を確保できる見込みですが、欧米の引き締めの金融政策がグローバル経済に及ぼすマイナス影響や中国経済の回復の鈍さを考えると、企業業績に対して楽観視はできないと考えています。バリュエーションについては、先々の業績改善や東証の要請に応じた企業の資本効率改善への期待などを相応に織り込んでいることから、更なるプラス材料がない限りは、市場参加者の先行きへの期待が一段と高まる状況とはなり難いと考えます。



	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
国内株式 TOPIX	2,003.50	2,332.00	2,250	2,250	2,300	2,350

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でS O M P Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、S O M P Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

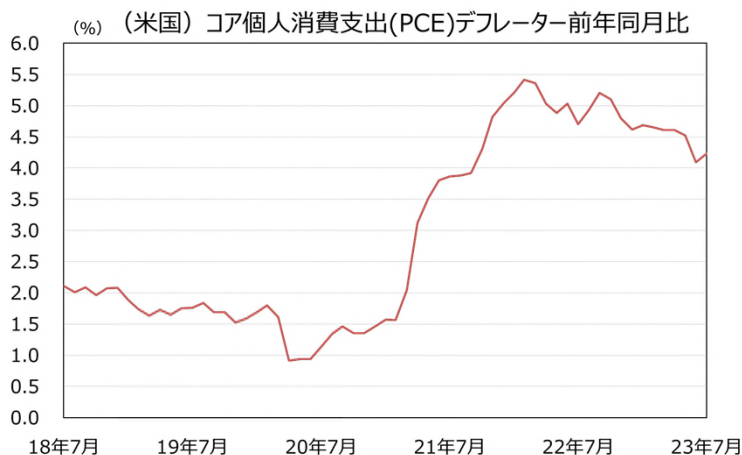
## 経済環境

### ：景気減速を予想

米国経済については、金融政策の引き締めにもかかわらず堅調に推移している一方、今後は金融引き締め効果が本格的に発現することが想定され、減速する展開を予想します。

個人消費支出価格指数は、変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数で、7月は前年比4.2%（6月4.1%）となりました。また、8月の失業率は3.8%（7月3.5%）となりました。

パウエルFRB（米連邦準備理事会）議長は8月下旬に開催された経済シンポジウムであるジャクソンホール会議にて、物価上昇の鈍化を好感しながらも水準はまだ高いとして、引き締め的な金融政策の継続を示唆しました。2%の物価目標の達成に対しては、潜在成長率以下の経済成長と労働市場の軟化が必要との見方を示し、引き続きデータ次第の政策判断がなされると考えます。



## 債券市場

### ：目先は金利は横ばい圏推移、その後は金利低下基調を予想

#### ◆ 前月の振返り

8月の米国10年債の利回りは上昇（価格は下落）しました。

米格付会社による米国債の格下げや、国債の大量発行計画の発表、また景気の底堅さを示す経済指標の発表を受けて、長期金利は上昇しました。

#### ◆ 見通し

今後については、目先は横ばい圏で推移し、その後は金利低下基調を予想します。

物価水準が早期にFRBの目標程度で落ち着く状況は見通せず、また、足もとは景気の底堅さが見られるため、目先は金利が低下しにくいと考えます。一方で、金融引き締め効果の発現により、今後は個人消費を中心に景気減速基調を予想することから、金利は徐々に低下基調に転じていくと考えます。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末実績値	23年8月末実績値	23年12月末予測値	24年3月末予測値	24年6月末予測値	24年9月末予測値
米国債券 米国10年国債利回り	3.47%	4.11%	3.90%	3.80%	3.70%	3.60%

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 米国

## 株式市場

：好悪材料が入り混じった一進一退の展開を予想

### ◆ 前月の振り返り

8月の米国株式市場は下落しました。

月前半、大手格付機関による米国債の格下げを背景に、株式市場は軟調に推移しました。その後、ジャクソンホール会合においてパウエル議長が従来のスタンスを継続したことを受けて、株式市場は反発したものの、月前半の下落を埋めきれず、月間では株式市場は下落しました。

### ◆ 見通し

今後の株式市場については、一進一退の展開を予想します。

米雇用統計において賃金の伸びが鈍化するなどインフレ沈静化が確認できる一方、高金利が続く中、信用コストの増大による貸出基準の厳格化や、米国消費者が裁量消費を抑制していることが企業業績に影響を与える可能性があるため、一進一退の展開を予想します。



## 為替市場

：日本の金融政策正常化観測により、円安ドル高圧力は抑制

### ◆ 前月の振り返り

8月のドル円相場は、円安ドル高となりました。

米国景気の見通し改善による米国の金融引き締め期間の長期化観測などを受けて、米国金利が上昇する一方、国内金利は日銀の国債買い入れへの警戒感などから上昇が抑制され、日米の金利差や金融政策格差を背景に、円安ドル高が進行しました。

### ◆ 見通し

今後については、当面は現状程度の横ばい圏の動きを予想します。

米国の金融引き締めが最終段階にあるという市場認識が広がる一方、日本は金融政策の正常化に向かう兆しがあり、これまでの円安ドル高圧力が抑制されると予想します。ただし、日米金利差が縮小方向に転換するにはなお時間がかかると考えるため、当面は方向感に乏しい展開を見込みます。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
米国株式 S&P500	4,109.31	4,507.66	4,400	4,450	4,500	4,550
為替 米ドル/円	133.09	145.59	145.50	143.50	141.00	139.00

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 欧州

## 経済環境

### ：潜在成長率以下への成長継続を予想

欧州経済については、景気に減速感が見られるなか、引き締め的な金融政策を継続しており、潜在成長率以下の成長が継続する展開を予想します。

物価については、8月の消費者物価指数は変動の大きい食品とエネルギーを除くコア指数で前年比5.3%（7月5.5%）となりました。

ラガルドECB（欧州中央銀行）総裁は、7月の理事会で0.25%の追加利上げが決定された以降、更なる利上げについての明確なメッセージを発していません。景気に減速感が見られるなかで、物価は引き続き高水準の伸びとなっており、ECBは難しい舵取りが要求されます。

## 債券市場

### ：中銀のデータ重視姿勢により、当面は不安定な動きを予想

#### ◆ 前月の振り返り

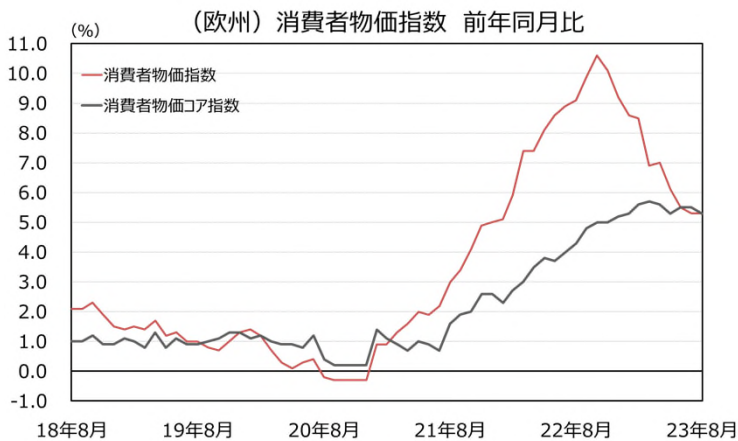
8月のドイツ10年債の利回りは小幅低下（価格は上昇）しました。

依然として物価水準はECBの目標水準を上回る状況にあり、月中は金利が上昇する局面があったものの、中国の景気後退観測もありドイツ景気の見通し悪化を背景に、金利は月末にかけて低下しました。

#### ◆ 見通し

今後について、ドイツ債券市場は、当面は不安定な相場推移になると見込みます。

基調的な物価上昇が早期に転換する可能性は低く、金利上昇圧力は継続すると考えます。一方で、景気悪化懸念が利回りの低下圧力となることや、ECBがデータ重視の姿勢を示していることから、当面、金利は不安定な動きになると考えます。



	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
欧州国債 ドイツ10年国債利回り	2.29%	2.47%	2.50%	2.40%	2.30%	2.20%

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

# 経済・金融市場見通し： 欧州

## 株式市場

：好悪材料が入り混じった一進一退の展開を予想

### ◆ 前月の振り返り

8月の欧州株式市場は下落しました。

月前半、大手格付機関による米国債の格下げや中国不動産開発大手の利払い遅延を背景に、株式市場は軟調に推移しました。その後、ECBの利上げ懸念後退や中国の政策期待を背景に、株式市場は反発したものの、月前半の下落を埋めきれず、月間では株式市場は下落しました。

### ◆ 見通し

今後の株式市場については、一進一退の展開を予想します。

ECB 議事要旨にて「9月の利上げは経済予測次第では必要ない」と示されるなど追加利上げへの懸念が後退する一方で、長引く高金利や中国景気の悪化が企業業績に影響を与える可能性があることから、一進一退の展開を予想します。



## 為替市場

：ユーロ圏の景気減速からユーロの上値は抑えられる

### ◆ 前月の振り返り

8月のユーロ円相場は、円安ユーロ高となりました。

日銀の国債買い入れへの警戒感などから日本の金利上昇が抑制された一方、欧州はインフレ抑制のためにECBの金融引き締めが継続するとの観測から、日欧の金融政策格差を背景に、円安ユーロ高となりました。

### ◆ 見通し

今後については、横ばい圏内での推移を予想します。

日本の金融政策が正常化に向かう兆しがあり、これまでの円安圧力は抑制されると予想します。一方で、ユーロ圏のインフレは引き続き高水準ながらもピークアウトしつつあり、これまでの利上げ効果の波及により景況感が悪化していることを受けてECBはデータ重視の姿勢を示していることから、ユーロの上値は抑えられると予想します。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
欧州株式 MSCI EUROPE指数	1,860.70	1,846.13	1,775	1,800	1,830	1,840
為替 ユーロ/円	144.60	158.01	157.14	156.42	155.10	154.29

予測値は予想レンジの中心値を記載

■本書は、情報提供の目的でSOMPPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

## 経済環境

### ：中国は景気鈍化 新興国は金融緩和方向へ変更する国が増える

中国では、大手不動産企業の債券利払い遅延を受けて住宅販売額の減少幅が拡大しており、景気減速が一段と進んでいます。

政策面では、住宅購入制限が最も厳しいとされる「一線都市」においても、住宅ローンの資格審査に関わる規定を緩める動きが相次ぎ、今後は住宅購入制限の段階的な解除など更なる不動産支援策の実施が期待されます。不動産産業はセメントをはじめとする川上産業のみならず、家電や自動車などの耐久消費財の需要にも大きな影響を与えており、不動産産業の回復は景気底入れに必要な不可欠であると考えられます。

新興国においては、これまでの利上げの累積効果や先進国の景気減速を受けて、当面は景気が減速すると思われませんが、内需が総じて底堅いなかで、インフレ圧力の緩和から利下げをする国も出始めており、来年は持ち直し傾向に転じる可能性が高いと考えます。

## 債券市場

### ：利下げ開始により、利回りは徐々に低下すると予想

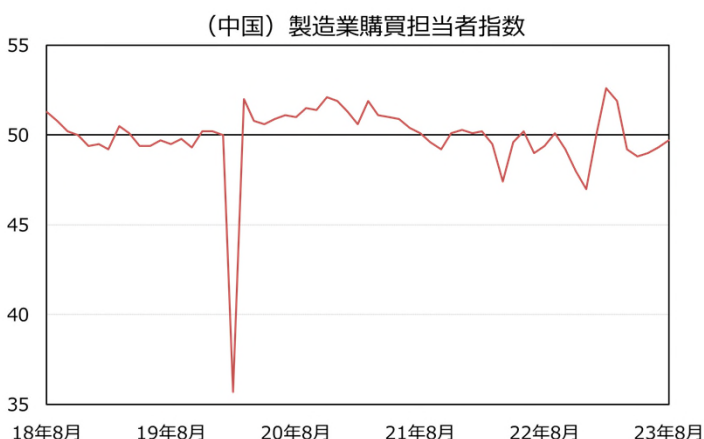
#### ◆ 前月の振返り

8月の新興国債券市場の利回りは上昇（価格は低下）しました。

米金利が上昇したことを受けて、新興国債券市場の利回りも上昇しました。中央銀行が早期の利下げに否定的な見解を示したメキシコや、中国経済に対する懸念の高まりから南アフリカ等の利回りが上昇しました。

#### ◆ 見通し

今後については、新興国においてもインフレ圧力の緩和から利下げを開始する国も出始めており、利回りは徐々に低下すると考えます。



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
新興国債券 JPMorgan新興国債券指数 (利回り) (注1)	6.52%	6.24%	6.20%	6.10%	6.00%	5.90%

予測値は予想レンジの中心値を記載

(注1) JPMorgan GBI-EM Global Diversified Index Excluding BB- Rated CountriesについてBloombergデータより当社作成

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。



## 株式市場

：景気鈍化と政府支援策の綱引きで、一進一退の展開を予想

### ◆ 前月の振り返り

8月のエマージング株式市場は下落しました。

月前半、大手格付機関による米国債の格下げや、中国不動産開発大手の利払い遅延を背景に、株式市場は軟調に推移しました。その後、中国人民銀行が政策金利である1年物最優遇貸出金利を引き下げたことを受けて、株式市場は反発したものの、月前半の下落を埋めきれず、月間では株式市場は下落しました。

### ◆ 見通し

今後の株式市場については、一進一退の展開を予想します。

中国大都市における不動産関連の規制緩和が期待される一方で、資金繰りに陥った不動産企業に対して、中国政府による抜本的な支援が行われないことや、可処分所得の伸び悩みによる住宅需要の抑制を背景に、エマージング株式市場は、一進一退の展開を予想します。

## 為替市場

：米国の利上げ終了とともに、上昇に転ずると予想

### ◆ 前月の振り返り

8月の新興国通貨は、対米ドルでは下落しましたが、円安が進行したため、対円では上昇しました。

米金利が上昇し米ドルが強含んだことや、中国経済に対する懸念が高まったことが、新興国通貨や資源国通貨の重石となりました。なかでも、南アフリカランドやブラジルレアル、チリペソなどが対米ドルで下落率が大きくなりました。

### ◆ 見通し

今後については、上昇に転じると考えます。

各国のファンダメンタルズによってまちまちの動きになると思われませんが、新興国通貨全体としては、米国の利上げ局面の終了にともなって、上昇に転じると予想します。

MSCI エマージング・マーケット指数



JPMorgan 新興国通貨指数 (円ベース) (注1)



Bloombergデータより当社作成

	23年3月末 実績値	23年8月末 実績値	23年12月末 予測値	24年3月末 予測値	24年6月末 予測値	24年9月末 予測値
新興国株式 MSCI エマージング・マーケット指数	59,416.19	59,703.82	58,500	60,000	62,000	64,000
為替 JPMorgan 新興国通貨指数 (円ベース) (注1)	6,764.17	6,984.29	7,130	7,103	7,050	7,020

予測値は予想レンジの中心値を記載

(注1) JPMorgan Emerging Market Currency Index Live SpotとBloombergデータより当社作成

■本書は、情報提供の目的でSOMP Oアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMP Oアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

## 各資産クラスのリターン実績

青色は期間中に最も高いリターンであった資産クラス、  
赤色は期間中に最も低いリターンであった資産クラスをそれぞれ意味します。  
(国内株式のバリュート指数・グロース指数、外国債券の円ヘッジ、および短期資産を除く)

2023年8月末時点

	国内債券	国内株式	国内株式		外国債券	円ヘッジ	外国株式	新興国債券	新興国株式	短期資産
			バリュート指数	グロース指数						
過去1ヶ月間	-0.7%	0.4%	1.5%	-0.9%	1.4%	-0.6%	0.1%	-0.3%	-3.8%	0.0%
過去3ヶ月間	-2.0%	9.6%	15.7%	3.4%	4.0%	-2.0%	11.8%	8.2%	8.0%	0.0%
過去1年間	-2.6%	22.0%	31.2%	13.7%	5.3%	-6.5%	22.1%	18.5%	6.8%	-0.1%
過去3年間(年率)	-1.6%	15.7%	22.6%	8.9%	3.4%	-7.2%	21.4%	9.5%	10.0%	0.0%
過去5年間(年率)	-0.6%	8.7%	10.2%	7.2%	4.2%	-2.2%	15.4%	7.4%	7.0%	0.0%
過去10年間(年率)	0.6%	10.2%	10.4%	10.0%	4.0%	0.0%	14.6%	4.3%	7.5%	0.0%
2022年度	-1.7%	5.8%	10.1%	1.5%	-0.5%	-10.2%	2.4%	9.3%	-1.6%	0.0%
2021年度	-1.2%	2.0%	8.1%	-3.8%	2.0%	-5.1%	23.0%	1.6%	-2.3%	0.0%
2020年度	-0.7%	42.1%	40.5%	43.8%	5.4%	-1.9%	59.8%	16.9%	62.7%	0.0%
2019年度	-0.2%	-9.5%	-16.2%	-2.3%	4.4%	7.5%	-12.4%	-9.2%	-19.4%	-0.1%
2018年度	1.9%	-5.0%	-5.2%	-4.9%	2.5%	1.8%	10.1%	-3.3%	-3.3%	-0.1%
2017年度	0.9%	15.9%	12.5%	19.6%	4.2%	0.9%	8.5%	7.9%	19.7%	-0.1%
2016年度	-1.2%	14.7%	19.9%	10.4%	-5.4%	-1.9%	14.5%	4.6%	16.6%	0.0%
2015年度	5.4%	-10.8%	-12.6%	-8.8%	-2.7%	1.2%	-8.6%	-7.8%	-17.2%	0.1%
2014年度	3.0%	30.7%	28.0%	33.2%	12.3%	9.5%	23.5%	3.5%	17.4%	0.1%
2013年度	0.6%	18.6%	18.0%	19.4%	15.3%	1.4%	32.4%	1.7%	8.4%	0.1%
2012年度	3.7%	23.8%	21.6%	25.5%	17.7%	4.6%	29.0%	23.0%	16.9%	0.1%
2011年度	2.9%	0.6%	1.0%	0.3%	5.0%	7.9%	0.5%	2.7%	-9.2%	0.1%
2010年度	1.8%	-9.2%	-11.2%	-6.9%	-7.5%	0.6%	2.4%	0.1%	5.4%	0.1%
2009年度	2.0%	28.5%	30.5%	28.2%	0.2%	2.1%	46.8%	29.3%	71.8%	0.1%
2008年度	1.3%	-34.8%	-29.0%	-41.1%	-7.2%	5.0%	-43.3%	-13.4%	-47.3%	0.4%
2007年度	3.4%	-28.1%	-28.3%	-27.4%	0.5%	2.3%	-16.8%	-1.8%	2.6%	0.5%
2006年度	2.2%	0.3%	3.2%	-2.7%	10.2%	-0.8%	17.9%	14.5%	21.1%	0.3%

Bloombergデータより当社作成

国内債券	NOMURA-BPI(総合)
国内株式	TOPIX(配当込み)
国内株式 バリュート指数	ラッセル野村バリュート指数
国内株式 グロース指数	ラッセル野村グロース指数
外国債券	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)
外国債券 円ヘッジ	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ヘッジベース)
外国株式	MSCI KOKUSAI(配当込み、円ベース)
新興国債券	(~2018/01)JPMorgan新興国債券指数(円ベース)
新興国株式	(2018/02~)JPMorgan新興国債券指数(除くBB-格未満、円ベース)
	MSCI エマージング・マーケット指数(配当込み、円ベース)

■本書は、情報提供の目的でSOMPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

## 市場予測

		2023年 3月末 実績値	2023年 8月末 実績値	2023年 12月末 予測値	2024年 3月末 予測値	2024年 6月末 予測値	2024年 9月末 予測値	2023年度 予想騰落率 (注3)
国内債券	Nomura-BPI総合	374.74	367.76	365.08	362.39	362.85	363.31	-3.2%
	10年国債利回り	0.32%	0.64%	0.75%	0.85%	0.85%	0.85%	-
国内株式	TOPIX	2,003.50	2,332.00	2,250	2,250	2,300	2,350	14.8%
	日経平均株価	28,041.48	32,619.34	31,900	31,900	32,000	32,200	14.1%
外国債券	FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）	510.10	549.57	555.12	557.79	558.11	560.03	9.4%
	米国10年国債利回り	3.47%	4.11%	3.90%	3.80%	3.70%	3.60%	-
	ドイツ10年国債利回り	2.29%	2.47%	2.50%	2.40%	2.30%	2.20%	-
	JPMorgan新興国債券指数（利回り）（注1）	6.52%	6.24%	6.20%	6.10%	6.00%	5.90%	-
外国株式	MSCI KOKUSA1指数（配当込み、円ベース）	5,644.42	6,674.18	6,560	6,590	6,610	6,610	17.1%
	S&P500	4,109.31	4,507.66	4,400	4,450	4,500	4,550	9.5%
	MSCI EUROPE指数	1,860.70	1,846.13	1,775	1,800	1,830	1,840	-1.6%
	MSCI エマージング・マーケット指数	59,416.19	59,703.82	58,500	60,000	62,000	64,000	4.3%
為替	米ドル/円	133.09	145.59	145.50	143.50	141.00	139.00	5.9%
	ユーロ/円	144.60	158.01	157.14	156.42	155.10	154.29	7.3%
	JPMorgan 新興国通貨指数（円ベース）（注2）	6,764.17	6,984.29	7,130	7,103	7,050	7,020	4.2%

注1 JPMorgan GBI-EM Global Diversified Index Excluding BB- Rated CountriesについてBloombergデータより当社作成

注2 JPMorgan Emerging Market Currency Index Live SpotとBloombergデータより当社作成

注3 2023年度騰落率は、2023年3月末（実績値）から2024年3月末（予測値）までの騰落率

■本書は、情報提供の目的でSOMPPOアセットマネジメント株式会社が作成した資料です。■本書は、SOMPPOアセットマネジメントが、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。■本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。■本書は、法令に基づく開示書類ではありません。■本書は、ご紹介したプロダクトの約定等をお約束するものではありません。

ご留意事項

---

# 投資一任契約に際しての一般的な留意事項

## ● 投資一任契約に係るリスクについて

投資一任契約に基づく運用は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし、投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従ってお客様から受託した資産の当初の評価額（元本）を下回ることがあり、さらに元本を超えて損失を被るおそれがあります。

投資一任契約の投資対象は、個別の投資一任契約毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご契約に当たっては契約締結前交付書面等をよくご覧下さい。

## ● 投資一任契約に係る費用について

[ご契約頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

### ■ 投資一任契約の期間中に直接または間接的にご負担いただく費用

…… 投資一任報酬をご負担いただきます。適用する料率は、運用の対象となる資産、契約資産残高、契約内容等に応じて異なりますので、料率、上限額等を表示することはできません。契約締結前交付書面等でご確認下さい。

### ■ その他の費用等

…… 上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。「その他の費用等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。契約締結前交付書面等でご確認下さい。

※当該投資一任契約に係る費用の合計額については、契約期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資一任契約を想定しております。投資一任契約に係るリスクや費用は、それぞれの投資一任契約により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく契約締結前交付書面等をご覧下さい。

## 投資信託をお申込みに際しての留意事項

### ●投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。

又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

### ●投資信託に係る費用について

[ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。]

- 購入時に直接ご負担いただく費用・・・購入手数料上限3.85%（税抜3.5%）
- 換金時に直接ご負担いただく費用・・・信託財産留保金上限0.5%
- 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬上限2.09%（税抜1.9%）
- その他費用等・・・上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。

「その他の費用等」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。交付目論見書、契約締結前交付書面等でご確認下さい。

当該手数料等の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

### 《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、SOMP Oアセットマネジメントが運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく交付目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

## その他 留意事項

---

- 本書は、情報提供の目的でS O M P Oアセットマネジメント株式会社（以下当社）が作成した資料です。
- 本書は、当社が、各種の一般に信頼できると考えられる情報に基づいて作成したのですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。本書に記載された内容、意見や予測は今後予告無しに変更される場合があります。
- 本書に使用した運用成績等は、過去の実績に基づいたものであり、将来の運用成績を保証するものではありません。
- 本書は、法令に基づく開示書類ではありません。
- 当社は、グローバル投資パフォーマンス基準（Global Investment Performance Standards, GIPS®）への準拠を表明しています。なお、当社は、2012年4月1日から2022年3月31日の期間について独立した検証者による検証を受けております。当社は機関投資家向け資産運用及び投資信託運用の意思決定過程が一体化しておりますので、GIPS基準では、全体を「会社」として定義しております。なお、当社のコンポジットの概略一覧表およびGIPS基準に準拠した提示資料は、ご請求に応じご提出可能です。GIPS®はCFA協会の登録商標です。CFA協会は、本組織を認証または推奨するものではなく、また、本書に記載されている内容の正確性または品質を保証するものでもありません。
- 請求先：S O M P Oアセットマネジメント株式会社  
投資顧問営業部 電話：03-5290-3511
- 尚、検証は、会社のコンポジットおよびプールド・ファンドの維持管理ならびにパフォーマンスの計算、提示、および配布に関する方針と手続が、GIPS基準に準拠してデザインされ、会社全体に適用されているかどうかについて保証を行うものです。検証は、特定のパフォーマンス報告書の正確性を保証するものではありません。